



ミヨウガ（茗荷）

撮影日：令和2年8月22日 秋田市 民家敷地

🌱 目次

生産現場情報：Z-GISの活用法人等が増えています！	・ ・ ・ ・ ・	P 2～4
営農支援情報：令和2年産米の作柄について	・ ・ ・ ・ ・	P 5～6
ご紹介：①秋田米フォーラム2020		
～「美味しい“あきたこまち”コンテスト」表彰～	・ ・ ・ ・ ・	P 7～8
②令和2年度 施肥防除合理化展示圃場試験成績検討会	・ ・ ・ ・ ・	P 8
③ブラウブリッツ秋田J2昇格おめでとう！！		
～秋田県産あきたこまちと豚肉を贈呈～	・ ・ ・ ・ ・	P 9
お知らせ：「Z-GISみんなで始めようキャンペーン」実施中！	・ ・ ・ ・ ・	P 10

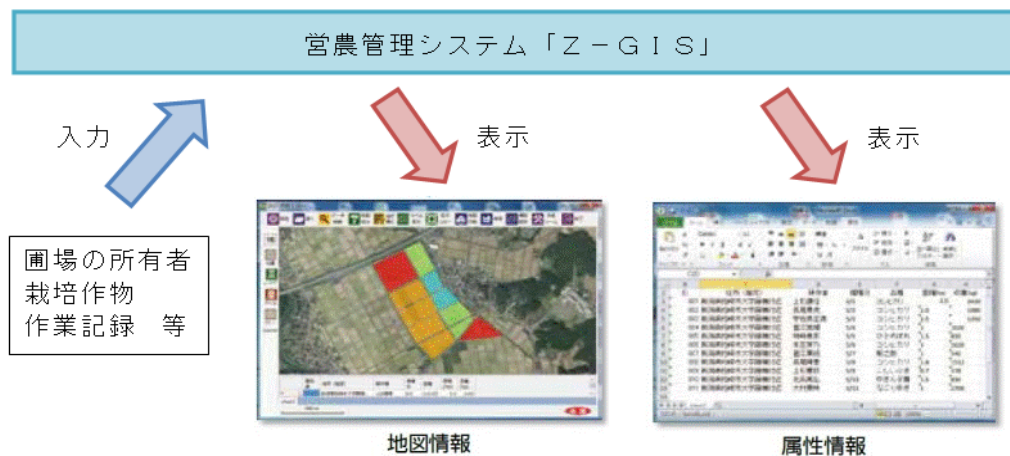
Z-GISの活用法人等が増えています！

1. Z-GIS（JA全農営農管理システム）とは

(1) 開発に至った経緯

近年、農業者の高齢化や労働力不足により、地域の担い手に農地が集積し、一つの経営体が管理する農地が増えており、作付け状況や作業計画、作業記録などの情報管理が煩雑になり、担い手の負担となっています。

このような営農課題の解決に向け、全農はクラウド型営農管理システム「Z-GIS」を開発し、2018年4月から運用を開始しています。



「Z-GIS」を利用した営農情報表示のイメージ

「Z-GIS」は、**圃場の所有者や栽培作物、作業記録などのデータを入力すると、インターネット上の地図に情報を表示させることができるシステム**です。JA全農では、このシステムによって作業の効率化が図れるため、多くの圃場を管理する農家や農業法人、集落営農組織、JAなどへのシステム普及を目指しています。

(2) システムの特徴

①Microsoft Excelのファイルによるデータ記録

圃場の位置情報（座標データ）とExcelデータを紐付けして管理できます。また、Excelデータは簡単に追加・記録できます。

②記録した情報は地図上に分かりやすく「見える化」

数多くの圃場の中から、借地だけを表示したり、作物名で地図を色分けしたり、様々な営農情報を地図上に表現することができます。

③クラウドストレージによるファイルの保管・共有

作成したデータは、サービスに付属するクラウドストレージに保管することにより、複数名で共有することができます。

④高解像度の航空写真を使用した見やすい地図の提供

高解像度の航空写真や電子地図など10種類の地図が使用できます。

(3) 活用想定場面

①多くの圃場を所有している場合の作業管理

圃場毎の作付計画や作業計画を白地図へ手書きで管理しており、計画の記入や変更に大きな労力がかかっている。

⇒システムを使用することにより、データ上で圃場毎の作業内容を記した地図を手間をかけずに作成・変更でき、労力軽減を図ります。

②作業受託等の管理

J A等でヘリ防除などの作業受託を受けた際、圃場が点在しており、作業対象圃場の特定に時間がかかっている。

⇒システムを使用し「見える化」することにより、圃場を間違えることなく作業を実施でき、効率的な作業管理を行うことができます。

2. 県内の普及状況

令和2年11月末現在、秋田県内では29の個人・法人等の会員に導入いただいております。Excelをベースにしたシステムであるため、記録した情報が地図上に分かりやすく表示される等の声をいただいております。 ※全国では1,013の会員で導入済み。

3. 県内の活用事例

○(株)真瀬ファーム (J A秋田やまもと管内)

【活用方法】

- ・ 水稻を中心に約50haの圃場管理をZ-GISにて実施しています。
- ・ 水稻は、圃場ごとに畔塗り～刈取りまでを項目別に記録・管理し、水稻以外の品目（そば、長ねぎ等）もZ-GISを使用して管理しています。
- ・ 圃場への薬剤散布等を実施する際、圃場ごとの散布量を従業員に分かりやすく伝えるため、クラウドを使用しスマートフォンで作業指示を実施しています。

【Z-GISを使用する感想】

- ・ 今までは地図を印刷して圃場場所や作業内容を書き込んで従業員へ渡していたが、Z-GISを使用することにより、地図上に場所や内容を分かりやすく表示できるようになった。
- ・ クラウドを使用することにより、スマートフォンから場所や内容を確認できるため、印刷にかかるコスト（紙代・印刷代）を削減できた。



Z-GISを操作する工藤代表

(参考)

1. 利用方法

①ダウンロード方法

インターネットにて「Z-GIS」を検索し、公式ウェブサイトからダウンロードしてご使用ください。スマートフォン、タブレット端末用アプリは、App Store、Google Playよりご入手ください。公式ウェブサイト：<https://z-gis.net/99/index.html>

②利用料金

登録100圃場毎に年間2,400円（税抜、クラウドストレージ1GB利用可）が課金されます。ただし、登録2,000圃場以上は年間定額48,000円（税抜、クラウドストレージ20GB）となります。

2. 1か月間お試し版

「Z-GIS」は1か月間無料でご使用いただけます。公式ウェブサイト右上の「無料で試す」を選択し、「1か月間お試しID」を取得してください。その後、使用許諾契約書に同意いただいたうえで、Z-GIS（PC版）をダウンロードしてご使用ください。

3. YouTubeで動画公開中

You Tubeに動画を公開しています。「Z-GIS」を検索いただくと、ユーザーインタビュー、スタートアップガイドがすぐに見つかります。右側のQRコードからもアクセス可能です。

The image shows a YouTube search interface with results for 'Z-GIS'. Two video thumbnails are highlighted with red boxes: '営農管理システムZ-GISインタビュー' (Interview with the Farm Management System Z-GIS) and '営農管理システムZ-GISスタートアップ' (Z-GIS Start-up Guide). To the right, two QR codes are provided for easy access to these videos. The top QR code is for the interview, and the bottom one is for the start-up guide.

※ ただいま「Z-GISみんなで始めようキャンペーン」実施中（令和2年12月1日～令和3年3月31日）です。本誌10ページもご覧ください。



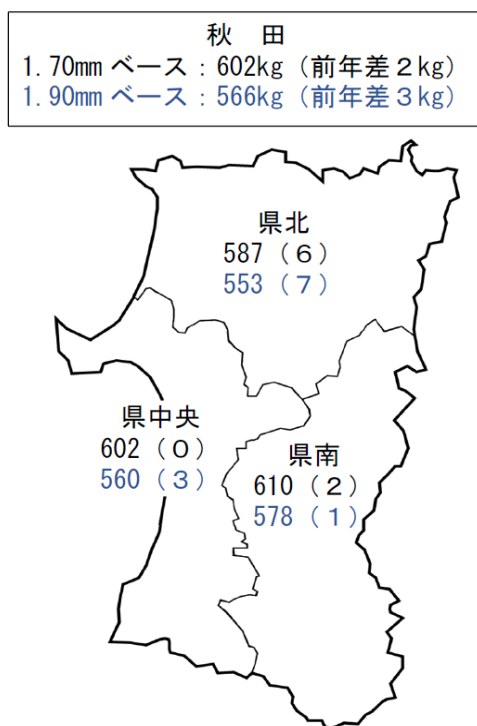
令和2年産米の作柄について

◆作柄概況◆

東北農政局は、12月9日に令和2年産水稻の収穫量を「105」の「やや良」と発表しました。水稻の10a当り収量は602kg（選別機のふるい目幅1.70mm）で前年産に比べ2kg増加しました。また、農家等が使用している選別機のふるい目幅（1.90mm）ベースの10a当りの収量が566kgで前年産に比べ3kg増加しています。

これは、全もみ数（穂数×1穂当りもみ数）が平年に比べ「やや多い」となり、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）もおおむね天候に恵まれ、「平年並」となったことにより「105」の「やや良」としています。

作柄表示地帯別の10a当り収量（選別機のふるい目幅1.90mm）は県北が553kg（作況指数：105）、中央が560kg（作況指数：104）、県南が578kg（作況指数：105）となりました。



東北農政局秋田拠点公表資料参照

◆ 1等米比率◆

東北農政局秋田拠点が公表した10月31日現在の検査数量は、水稻うるち玄米が305,508トン（前年同期比101.8%）で、1等米比率は91.8%となりました。

2等以下に格付けされた主な理由は、着色粒（46.7%）、形質（38.3%）、被害粒（9.3%）によるものとなっています。

◆ 生育概況◆

4月の日平均気温は平年に比べ-1.0℃低く、日照時間は少なく、播種作業の盛期（50%）が4月22日と平年並みとなりました。5月は、日平均気温が平年と比べ+0.9℃高く、日照時間は少なく、全県の田植えの盛期（50%）が5月23日とほぼ平年並みとなりました。

その後は6月中旬まで、高温・多照で推移し、7月～8月までは多雨と極度な日照不足などの観測史上記録的な気象で経過しました。

東北農政局が発表した作柄概況では、出穂期盛期（50%）は8月3日で平年より1日早くなっています。登熟中・後期は、過去に類のない異常高温と多照で推移し、稲刈りの盛期（50%）が9月29日と2日早くなっています。

今年の気象は、播種から稲刈りまで気象変動が非常に大きく、水・肥培管理が大変難しい年となりました。こうした厳しい天候にもかかわらず、生産者の弛まない努力が実り、今年も高品質・良食味米が収穫されました。気象変動の年が多い昨今、土づくりや深耕の確保、健苗育成、適期田植え、栽植密度の確保、水・肥培管理などの基本技術を励行し、高品質・良食味の秋田米生産につなげていただきたいと思います。



ご紹介

秋田米フォーラム2020～「美味しい“あきたこまち”コンテスト」表彰～

J Aグループ秋田・J A全農あきたは12月9日、秋田市の秋田キャッスルホテルで「秋田米フォーラム2020」を開催し、生産者や県、J A関係者など約100人が参加しました。

このフォーラムは、秋田県産米のさらなる高品質・良食味米生産、需要ニーズに応じた生産の取り組みを促進し、県産米の市場評価向上とシェア拡大を目指すことや、令和4年産デビューを控えた次世代極良食味品種「サキホコレ」の情報提供と秋田米の生産・流通・販売に向けた取り組みについて、関係者の意識醸成を図ることを目的に開催されました。



フォーラムでは、今年で8回目の開催となる「美味しい“あきたこまち”コンテスト」の結果発表と表彰式も行われ、県内12 J Aおよび1公社から推薦・出品された81点の中から12人が表彰され、最優秀賞（秋田県知事賞）には阿部静夫さん（J A秋田しんせい管内）が輝きました。



コンテストで優秀な成績を収めた生産者の栽培方法の事例は、全県域で一層の品質向上をはかるため、情報共有されます。

また、上位5名のお米は「ザ・プレミアムファイブ」として商品化され、秋田県内では12月12日（土）から、県外も12月中旬から限定販売されています。



令和2年産米「美味しい”あきたこまち”コンテスト」表彰

褒賞	管内JA	受賞者
最優秀賞	秋田県知事賞	JA秋田しんせい 阿部 静夫
優秀賞	一般財団法人日本穀物検定協会会長賞	JA秋田しんせい 小松 幸男
	秋田県産米改良協会会長賞	JAかづの 加賀 唯司
	秋田県農業協同組合中央会会長賞	JA秋田たかのす 農事組合法人 上仏社管農組合
	全農秋田県本部県本部会長賞	JAあぎた湖東 一関 健次
優良賞	全農秋田県本部県本部会長賞	JAあぎた北 高橋 亨
	全農秋田県本部県本部会長賞	JAあぎた湖東 小玉 重博
	全農秋田県本部県本部会長賞	JA秋田なまはげ 宇佐美 保治
	全農秋田県本部県本部会長賞	JA秋田なまはげ 仲山 重孝
	全農秋田県本部県本部会長賞	JA秋田おぼこ 佐々木 祐亮
	全農秋田県本部県本部会長賞	JA秋田おぼこ 伊藤 重雄
	全農秋田県本部県本部会長賞	JAこまち 高橋 征志
特別賞 *当コンテストで三度入賞した生産者を対象	全農秋田県本部県本部会長賞	JAあぎた湖東 一関 健次

※敬称略

米穀部 米穀販売課 ☎018-845-8040



令和2年度 施肥防除合理化展示圃場試験成績検討会

JA全農あぎたは11月26日、施肥防除合理化展示圃場試験成績検討会を開催し、県内JA、秋田県農業試験場、秋田県病害虫防除所、肥料農薬メーカーの担当者ら約130人が参加しました。

この検討会は今年で40回目を迎え、新しい肥料や農薬の普及のほか、適切な指導により過剰な施肥・防除を防ぎ、生産コストの削減を進めるうえで、重要な検討会になっております。

はじめに令和2年度の気象経過と水稻の生育や主要病害虫の発生及び防除状況について報告し、各試験圃場での肥料試験・農薬試験の成績報告に対し秋田県農業試験場の研究員や秋田県病害虫防除所の担当者から助言をいただきました。JA全農あぎたは、今後も展示圃試験の結果をとおして、県内JA、関係機関と連携し現場目線で肥料・農薬の普及活動に努めてまいります。



生産資材部 肥料農薬推進課 ☎018-880-1624



ブラウブリッツ秋田 J2昇格おめでとう！！

～秋田県産あきたこまちと豚肉を贈呈～



左から：ブラウブリッツ秋田 加賀健一選手、岩瀬浩介代表取締役社長、JA全農あきた小林和久県本部長、ブラウブリッツ秋田 前山恭平選手

JA全農あきたがオフィシャルスポンサーとして応援しているサッカーJ3リーグブラウブリッツ秋田の岩瀬浩介代表取締役社長と前山恭平選手、加賀健一選手が来会し、シーズン終了を報告してくれました。

J3リーグ参入7季目となるブラウブリッツ秋田の今シーズンの成績は21勝10分2敗、1位で2020シーズンを終え、J2昇格が決まっています。

優勝・J2昇格を記念して、選手らに秋田県産あきたこまちと秋田県産豚肉を贈呈しました。岩瀬社長から「選手のみならず地域のみなさんとともに成し遂げたJ2昇格です」と感謝の言葉をいただきました。

JA全農あきたの小林和久県本部長が「J2での活躍も期待しています」と激励しました。



「Z-GIS みんなで始めようキャンペーン」実施中！



Special Campaign

全農 営農管理システム Z-GIS 全農 営農管理システム

Z-GIS みんなで 始めようキャンペーン

国場情報の電子化・見える化

令和2年12/1
▶ 令和3年3/31

期間限定 入会后、最長4か月間
利用料が無料

営農支援部 営農支援課 ☎018-864-2461



Za・あぐりふおーむ
Zennoh-akita agriculture+reform



JA全農あきた営農情報誌Za・あぐりふおーむ
第11号 令和3年1月5日発行

編集・発行 JA全農あきた営農支援部営農支援課 〒010-8558秋田市八橋南2丁目10番16号 018-864-2462